

白鳥

第185号

全国低肺機能者グループ
東北白鳥会

〒980-0022
仙台市青葉区五橋2-12-2
仙台市福祉プラザ8F

医療情報誌



水の森公園丸田沢(仙台市泉区)

東北白鳥会は、左記の項目の実施を切に
要望します。

- ・内部障害者等級の見直しと福祉制度の向上
- ・肺移植の助成と医療費の保険適用
- ・保健所の呼吸器教室を制度化し全国実施
- ・訪問診療、看護、介護の充実とリハビリ指導
- ・呼吸療法士資格の設置と知識の普及
- ・禁煙普及・公共機関等の無煙化
- ・呼吸器科医師の増員と熟練医師の再任制
- ・通院サポート制度の確立
- ・低肺ホームの設置
- ・パルスオキシメーターの貸与
- ・呼吸不全者の三級医療費助成

地域の皆様のご理解とご支援により、
一日も早い施策の実現を懇望致します。

目次

巻頭言	3
新年のメッセージ	1
現代の医療 がん診療の進歩と課題	19
音楽と上手に付き合っていますか	19
陽子線治療法	28
日本呼吸器疾患患者団体連合会	35
渡辺 夫先生	35
第三回総会の概要について	38
厚生労働省に提言	40
ヘルスケアワークショップに参加して	44
署名活動の経過について	46
3・18みやぎアピール	47
大行動(集会)に参加を!!	44
難病相談会を実施	48
指導・黒沢 先生	49
楽しく生きよう 母からの贈り物	48
関根千賀子先生	49
編集後記	54
	52

会報「白鳥」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて作成したものです。

初春

巻頭言



東北白鳥会 会長

渋谷

章



新年明けましておめでとございます。

昨年の一年は事件あり、事故があり例年に比べ多かつたように思いますが、皆さんいかがでしょうか。そういえば、年末恒例の(一文字)は(命)でした。

本格的な寒さはこれからだと思えますので、皆様方におかれましては、くれぐれもお身体にご留意されますようお願いいたします。

昨年末における署名活動に対しまして、多くのご協力をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。おかげさまで、速報でもお伝えいたしましたように、多くの方々から、多大な協力をいただきまして、初期の成果を得ることが出来ました。これも会員皆様はじ

め、支援をいただいている多くの方々のご協力の賜物と存じております。ありがとうございます。ありがとうございました。

昨年以來、多くの障害者にとっては、大変つらい年となってしまったとの声が多く、生活しにくいとの声が多く聞かれます。こんなときこそ、多くの障害者たちが、手を携えながら頑張っていかなければならないのかもしれないかもしれません。

命は待ってくれません。日常生活もままならず、残りの日数を数えながら、日々を過ごしている方々のためにもがんばらなければなりません。今年にかける期待は大きなものがあります。日々の歩みは遅くとも、着実に一歩一歩を踏みしめてまいりたいと思います。

ぜひ皆様方のご協力をお願いし申し上げます、新年のご挨拶いたします。

平成十九年 元旦



迎春 新年のメッセージ



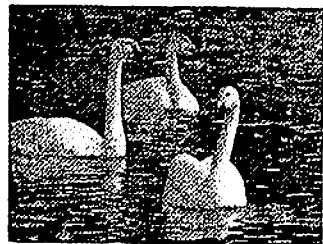
宮城 県知事 村井 嘉浩

明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

東北白鳥会におかれましては、会員の皆様の固い結束の下、低肺患者を守るため日ごろから大変な御協力、御尽力をいただいておりますことに、心から感謝と敬意を表するものであります。

さて、国内外の情勢が激変する中、県では、県民の皆様が希望を持って安心して生活できるみやぎを構築するため、様々な政策に取り組んでまいりました。そのひとつの柱として「安心と活力に満ちた地域社会づくり」を基本として、誰もが安心して暮らせるみやぎを実現するため、救急医療体制の整備や各種福祉施策などの推進により、福祉サービス水準の更なる向上を図るほか、子育てや女性の就労環境の整備、子供の能力や創造性を高める教育を進めてまいります。

御承知のとおり、障害者福祉は、大きな変革期を迎えております。身体・知的・精神の三障害を一元化して福祉サービスを提供しようとする「障害者自立支援法」が昨年四月からスタートし、障害者の自立支援



を目的とする大きな制度改革がなされました。県としては、障害のある方一人一人がよりよいサービスを受けられることができるよう、そしてどんなに重い障害があっても、地域で自分らしい生活を安心して送ることができ、社会の実現を目指し、市町村と手を携えながら引き続き努力してまいります。

県民一人一人が「生まれて良かった、育ってよかった、住んでよかった」と思える宮城県を県民の皆様とともに築き上げてまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。年頭に当たり、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、挨拶いたします。



仙 台 市 長 梅 原 克 彦

新年あけましておめでとございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

いよいよ今年は、仙台市にとって、未来の街づくりの基盤となる地下鉄東西線事業の本体工事がスタートします。この街の百年の計を考え、東西線を軸に都市機能の一層の高度化と魅力的な都市空間の整備を戦略的に進め、地域経済の活力増進につなげてまいります。

また、JRや宮城県と連携し、「仙台・宮城・デスティネーションキャンペーン」の準備を進めております。昨年の山形・福島両市との広域観光連携に関わる協定締結、タイのバンコクにおける三市共同の観光物産展開催に続き、国内外へのシティセールスを強化し、地域経済への波及効果の高い観光産業の振興に努めます。皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶いたします。



宮城県医師会 会長 師 研 也

二〇〇七年の年頭にあたり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

日頃、白鳥会会員の皆様は力強い結束力のもとに会の発展、会員の福祉向上に向けて活動を続けてこられたことに心から敬意を表します。特に、息苦しい体力の限界にありながら白鳥会発展のため県医師会へもご訪問いただいた村上元会長のお姿はいまだに私の目に焼きついております。そのご意志を継ぎて低肺機能のハンディーを持つ会員のために日夜活動を続けている渋谷会長はじめ皆様には深甚の謝意を表します。

さて、ご承知のように我が国は世界一の長寿国となり、世界一の福祉国家を目指しています。しかし、昨年六月に医療制度改革関連法案が衆参両院を通りまして以来、その具体化に向けて沢山の政省令が発布され、その取り組みに追われているのが現状です。三位一体改革のもと都道府県に実施責任が移行した現在、宮城県もその例外ではなく、今年はこの過渡期にどのように県政の舵取りをしていくかが大いに期待しているところです。平成十九年度予算は削減に削減を重ね、どうにか成立したと聞いています。先日、県は今後の十年を見据えて、明るい将来ビジョンを発表しました。その基本理念として「富県共創・活力とやすらぎの邦づくり」を掲げました。私も宮城県総合計画審議会の委員として、このビジョンのもとでの答申書作りに参加しました。そして、国連の理念でもある「人間の社会保障」の重要性を訴え、その理念を各所に取り入れていただきました。

国も地方も社会保障全般に財政優先ですすめられる今日ですが、我が宮城県はこの「富県共創」の目標を一日も早く達成し、明るい社会保障の充実発展した県に成長してもらいたいと念じています。その結果が白鳥会の充実発展に結びつく日の早からんことを願っています。

皆様方の希望のもてる明るい未来をご祈念申し上げながら新春のご挨拶とします。



仙台市医師会 会長 山田明之

新年あけましておめでとうございます。東北白鳥会の皆さまにおかれましては、ご健勝にて良き新春を迎えられたこと、お慶び申し上げます。

また、さまざまな活動を続けてこられたことを心より敬意を表し、今後とも前進されますことを願っております。第であります。

昨年を振り返ってみますと、医療制度改革関連法案の成立、診療報酬の引き下げなど医療を取り巻く環境が大きく変貌いたしました。さらには過酷な勤務状況や医師不足などの問題も浮き彫りとなってまいりました。我々としても早急に手を打たなければならぬと考えております。

本年も皆さま方のご協力、ご理解を頂きながら事業の推進を計っていききたいと存じます。年頭にあたり、東北白鳥会の益々のご発展とご活躍を心からお祈り申し上げます、挨拶いたします。

衆議院議員 伊藤信太郎

新年明けましておめでとうございます。

東北白鳥会の皆様が無事元気で新しい年を迎えられたことをお慶び申し上げますと共に、日頃における皆様のご活躍に対し心から敬意を表したいと存じます。

宮城県に於いては「日本一の福祉先進県づくり」を県政の柱として障害福祉に取り組んでおり、安心して生活を送れる社会実現に向け努力されております。私も皆様方と共に医療福祉充実のため国政の場に於いて邁進して参りますことをお誓い申し上げます。

結びに、会員皆様のご健康と東北白鳥会の益々の発展をお祈りいたして新年のご挨拶いたします。

衆議院議員 中野正志

新年あけましておめでとうございませす。

光々として晴れやかに皆さまにはご家族おそろいで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申しあげませす。

今年も全国低肺機能者の皆様からのご要望をしっかりと国政の場へお届けし、皆さまとご一緒に障害者福祉向上のため邁進してまいりますので、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、東北白鳥会のますますのご発展と、会員皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

衆議院議員 西村明宏

新年あけましておめでとうございませす。

渋谷章会長様をはじめ皆様には健やかで明るく希望に満ちたお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。白鳥会の皆様が長期にわたり、社会福祉の向上

平素より皆様のご厚情を賜り、心から感謝いたします。

発展のため御尽力され、実を結びつつありますことに、衷心より敬意を表します。

私としましても、皆様からの負託をしっかりと受け止め、「低肺機能の皆様方への支援」「安心・安全な郷土づくり」等、諸問題解決に向け邁進する所存です。

東北白鳥会の今後益々のご発展と渋谷会長ならびに皆様の御健勝御多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

衆議院議員 郡 和子

新年あけましておめでとうございます。東北白鳥会のみなさまにとって今年が幸せで有意義な年になりますようお祈り申し上げます。

日ごろから、みなさま方が心をひとつにして呼吸器疾患への支援や啓蒙活動に取り組まれていることに、改めまして、心から感謝申し上げます敬意を表します。

昨年は、障害者自立支援法に、また医療制度改革に、批判の声が上がリ、私も更生労働委員のメンバーとしてこれらの問題に取り組ませていただきました。内部障害者の等級の見直しや真の福祉制度構築に向け、更に活動を進めたいと考えております。

ところで、国連は昨年十二月十三日の総会で「障害者権利条約」を採択致しました。障害者の差別を禁止しそれぞれの権利をしっかりと保障する、私も長年待ち望んでいた条約です。日本もこれを批准しそれに基づいた政策を実現させなければならなくなります。一日も早い批准に向け、渋谷会長様はじめみなさま方のご指導を仰ぎながら、私も頑張つてまいります。

この一年も何卒よろしく願っています。

参議院議員・医師 櫻井 充

新しい年の扉が開かれました。渋谷会長を始め、東北白鳥会の皆様におかれましては、穏やかに初春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

巷間では「安心」とか「セーフティーネット」などという言葉が氾濫していますが、呼吸器障害の問題は長い間解決されずに蚊帳の外に置かれたままになっています。政府は、アスベストや耐震偽装等、話題になるものばかりに対策を打っている感は歪めず、呼吸器の問題ももっと取組がされてしかるべきだと感じております。

私は、今まで微力ながら、国政の場で呼吸器障害の問題について取組んで参りましたが、その解決には議員間の協力が不可欠だと思っております。そして、昨年四月、遂に与党と民主党で慢性呼吸器疾患対策推進議員連盟が結成され、私はその呼びかけ人となりました。この議連によって、皆さんが直面されている問題が早期に解決されるよう力を尽くして参りたいと思っております。

最後になりましたが、東北白鳥会の益々のご発展と、皆様のご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

参議院議員 岡崎 トミ子

新年、あけましておめでとうございます。

昨年も、皆様のチャリティー音楽会に出席をさせていただきました。いつも通り、とてもアットホームで、優しい音楽に心慰められる会でした。穏やかな音楽が人の心を癒す力に、当事者しか分からないつらさのなかで、長きにわたって大切なお仕事を続けてこられた皆様の想いを重ね合わせた一日でした。

低肺機能については、まだまだ理解が広がっていません。そうした中、皆様のねばり強い活動が、とかく孤独な闘いを強いられがちな患者の皆さんの希望となってきたことは、多くの患者さんから伺ってきたことです。

財政状況を理由として、医療・福祉については厳しい措置が迫られています。そのような動きを跳ね返し、経済的問題の解決、医療・治療の充実、療養体制づくりを進めるために、私も国会の場で力を尽くしてまいります。

この一年が、皆様が喜びを実感することのできる年となりますことをお祈りいたします。

宮城県議会議員 石橋 信勝

東北白鳥会の皆様、二〇〇七年の新春をお元気に迎えられたこと心からお慶び申し上げます。

昨年は何かとお世話になり、本当にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

先日、資料を整理しておりましたところ、村上きみ子前会長から届いた文書が出てきました。平成十五年十一月十一日付けの文書でした。そこには低肺患者の置かれた立場を少しでも改善させずにおくものかという村上さんの並々ならない思いがつつられており、私は涙を禁じえませんでした。自らの病をおして東京の厚生労働省に要望に行きたいという文面でした。私は改めて身のひきしまる思いがいたしました。そして、微力ではございますが白鳥会の皆様のお役に少しでもたせたいと決意を新たにいたしました次第です。

今後ともご指導をいただきながら頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

宮城県議会議員 中澤 幸男

新年明けましておめでとございます。

皆様、お身体の方は如何ですか、案じております。

小生もお蔭様にて元氣に正月を迎えることができました。今弱者にあまり良い陽が当たっておりません。今年も福祉の向上に向け体当たりで頑張つて行く覚悟です。

皆様共々頑張りましょう。

宮城県議会議員 菊地 文博

新年明けましておめでとうございます。皆様お元氣ですか。

国や地方の財政難が叫ばれる今日、新たな視点での福祉の充実が求められています。しかし様々な問題もとりざたされており、利用者主体の視点から福祉サービスの提供に不可欠な制度を早急に構築していかねばならないと思っております。今こそ力強い政治のリーダーシップが求められております。

新たな保険福祉制度の充実に向けて、本年が実りの多き年になりますことを心より祈念申し上げます。また会員の皆様のご健勝とご多幸をあわせてお祈り申し上げます。

宮城県議会議員 藤原 のりすけ

経営学博士

清新の氣あふれる新年を迎えました。

昨年は哀しい事件が続いた一年でした。「どうしてでしょうか？」と聞かれた作家の五木寛之さんは、「それは日本人の命が軽くなっているからです。」と答えたそうです。「どうして軽くなっているのでしょうか？」「それは心が渴いているものは軽く、温まっているものは重いのです。」と言われたそうです。

今「共感共苦」、共に感じ共に苦しむという感覚が薄れています。人間誰も先のことはわかりません。いつ死ぬか、またいつ障害をもつことになるか誰にも予測できません。しかし大切なことは、例えばどうなったとしてもお互いに助け合い支えあう心と姿勢を持ち続けることだと思えます。「もう誰も孤独にならない。もつとつながりのある社会」へ、少しでも近づけて行きたいものです。

白鳥会の皆さんの勇気ある前向きな姿勢に共感し、微力ながらこれからも応援させていただきます。

仙台市議会議員 熊谷 よしお

あけましておめでとうございます。新年を迎え、この一年が東北白鳥会会員皆様とボランティアの皆様にとつて幸多い年でありますようお祈り申し上げます。

私は会員皆様が呼吸器機能障害でのハンディを背負いながらも、渋谷会長を先頭に白鳥会の組織を通してお互いに励まし合い、がんばっておられますことに、いつも敬意を抱いています。

私は仙台市政推進の場に身を置いて、呼吸器機能障害者への施策の拡大に取り組んでまいりましたが、これまで酸素濃縮機電気代助成や療護施設建設、パルスオキシメーター給付等でささやかな成果もありましたが、会運営の支援や医療関係での支援にまだまだ不足があることを実感しています。今後もし取り組んでまいりますので、ご指導をお願い申し上げます。

少子高齢化の社会にあつて、難題が山積していますが、健康に充分に留意され、皆様がお元気で過ごされますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

日本学術会議会員

東北厚生年金病院 名誉院長 藤村重文

新年明けましておめでとうございませう。

東北白鳥会の皆様には、お健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。二〇〇七年も白鳥会と共に皆様の活動がさらに力強く発展されるようにお祈り申し上げます。

昨年は我々にとってよいことやそうでないことがいろいろありました。昨年のよいことのひとつは、四月一日よりニコチン依存症に対してニコチンパッチが保険適用になったことです。低肺機能の最も多い原因疾患であるCOPD治療には禁煙が最も大切ですが、そのほかに風邪の予防、ワクチン接種、適度の運動、体重減少の防止、そして薬物療法・人工呼吸療法などがあります。自己管理をしっかり行うことが重要です。

最近公施設での全面禁煙が進んできていますが、まだまだ不十分です。禁煙したいと思ってもなかなかできない方も未だ多くいます。もしも皆様のなかでそのような方がおられましたら、禁煙をサポートしてくれる禁煙外来を受診して下さい。

最近全国的に流行したノロウイルスによる感染性胃腸炎は下火になっていますが、これからがインフルエンザ流行の季節です。ワクチン接種のほか、うがい・手洗い・口腔ケア・十分な睡眠・十分なカロリー摂取、さらに部屋の換気と適切な湿度維持や風邪を引いている人からできるだけ離れること、などはこれからの冬を過ごす上で大切なことです。

皆様のご健康を心から祈念して新年のご挨拶と致します。

東北大学保健管理センター 所長 飛田 渉

新年あけましておめでとうございます。白鳥会の皆様にかかれましては健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

呼吸不全に対する治療法も日進月歩、これまで酸素療法が中心でありましたが、理学療法や栄養療法などの酸素療法も重要であることが多くの研究で明らかになっており、これらの治療法を取り入れた包括的な治療法が提唱されております。また、呼吸不全の治療には医師のみならず看護師、理学療法士等多職種のコメディカルの方々の参加によるチーム医療の重要性も指摘されております。私どもは昭和六十一年に誕生しました呼吸不全東北地区対策協議会を企画運営して参りました。はや二十年が経過したことになります。東北白鳥会と同じ年を重ねたことになるかと存じます。この度、本協議会の活動がより一層発展すべく「東北呼吸ケアフォーラム」と改名致しまして、新たなスタートをきることになりました。本会を通じて呼吸不全に悩まされる多くの患者様そして家族の方々の安寧のためにお役に立ちたいと存じます。

末尾となりましたが、東北白鳥会の皆様のお声は大変重要であります。今後とも私どもを叱咤激励下さいますようお願い申し上げますと共に、会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

東北大学加齢医学研究所

呼吸器再建研究分野 教授 近藤 丘

平成十九年の年頭にあたり、東北白鳥会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

本年は例年になく穏やかな元旦を迎えましたが、会員の皆様には恙なくお過ごしのことと思っております。

さて、東北大学病院は昨年の十月から敷地内全面禁煙となりました。このような処置をとってまだ数ヶ月

というところですので、いまだ徹底しきれていないところやあるいは一部外に出て公道にて喫煙をしているむきも多少認められますが、国民皆保険の医療費により症病の治療を行う場である病院としては、医療費の増加に一役買う可能性のあるものはやはり排除していかなくてはなりませんし、少しずつはあります。呼吸不全の苦しみは当事者でなくては理解し難いものであり、そうなる初めに気づくものであります。またそうなるからでは取り返しがつかないということも現在問題を抱えていない人にはなかなか理解されないのが実情であります。喫煙はこのような呼吸器ばかりでなく、循環器、消化器の疾患とも深く関係しているということは言わずもがなの事実であります。しかしながら、更労省が意圖した喫煙率の低下の数値目標は、個人の嗜好を規制することはまかりならぬという論理で一蹴されたと聞きます。確かに喫煙自体は個人の嗜好であるかも知れませんが、いったん病気になるれば個人の問題では済まなくなり、家族にも社会にも多大の負担をかけることとなりますし、喫煙自体他の人の健康を害する可能性もあるということを忘れてはいけません。もちろん、さまざまな原因で呼吸不全となっている方にとっては喫煙の煙は極力さげなくてはいけないものであります。世の中の禁煙化に皆様の声は大きな力となるものと思っておりますので、声を大にして一層の禁煙推進にお力を頂ければ幸いです。

東北大学加齢医学研究所

呼吸器腫瘍研究分野

助教授

渡 辺

彰

新年明けましておめでとございます。白鳥会の皆様には本年も良い年でありますようお祈り申し上げます。

皆様には、村上きみ子前会長の遺志を受け継ぎ、渋谷章会長のもと一丸となって活動を続けておられるご

様子、感服すると共にさらに一層頑張っていただきたいと思っております。

以前にもお伝えいたしましたのが、呼吸機能が低下されておられる方々にとつては、肺炎など特に冬期間の呼吸器感染症への対応が極めて重要です。その診断と治療ももちろん大切ですが、発症予防が最も重要です。これについてはインフルエンザワクチンの公費助成のみならず、肺炎球菌ワクチンの公費助成が徐々に広がっています。宮城県内では平成十五年の白石市・蔵王町・七ヶ宿町、平成十七年の柴田町に引き続いて十八年、川崎町と大衡村で肺炎球菌ワクチンの公費助成が開始されました。全国に目を転じると、まだまだ少数ですが平成十八年十二月現在、全国四十四市区町村が公費助成を行っております。また、その接種回数についてはわが国では生涯一回だけの接種とされていますが、わが国を除く諸外国では条件を定めて反復接種が認可されています。わが国でも当然、再接種は必要ですが、昨年六月、関係四学会の理事長の連名で再接種認可要望書を提出いたしました。公費助成ともどもわが国での広い実現に努力したいと考えておりますので、皆様にもご指導・ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

皆様には麗しき新年を迎えられ、ますますご発展されることをお祈り申し上げますと共に医療従事者が少しでもお役に立つことが出来れば、と思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

仙台循環器病センター 呼吸器科 科長 岡 山 道 子

東北白鳥会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は暖冬で、雪のない穏やかなお正月でしたが、お健やかに新春をお迎えになられましたでしょうか。

戦争のない平和な世の中であってこそ、人間らしく病と闘えると思います。ゆめ、将来においても、戦乱で命が失われることがないよう切望するとともに、心より皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

白鳥会はすでに発足二十二年を過ぎましたが、長年にわたり、慢性閉塞性肺疾患、肺線維症、肺結核後遺

症などによる慢性呼吸不全に苦しむ方々に対し、大きな励ましと援助を与える活動が続けて来られたことに、心より敬意を表しますとともに、ますますの東北白鳥会のご発展を祈念いたします。

昨秋、白鳥会も加盟されている「日本呼吸器疾患患者団体連合会」と日本呼吸器学会は協力して、在宅酸素療法患者および在宅人工呼吸患者の経済的負担軽減のための署名活動に取り組みましたが、日本呼吸器学会の認定施設である当院でも、患者さんとそのご家族、および病院全体の医療職員の理解と協力を得て、体勢の署名を集めました。呼吸不全の患者の皆様が安心して生活できるように、要望がかなえらるることを、医療人として強く願います。

今年の冬はノロウイルスによる感染症胃腸炎が大流行していますが、皆様、体調は如何ですか。さらに今後はインフルエンザ感染症の流行が懸念されます。インフルエンザ予防接種はお済かと存じますが、なお充分ご注意ください。予防接種をお受けにならなかった方で、インフルエンザにかかったかもしれないと思われた時は、出来るだけ早く、発熱などの症状が開始して二日以内に医療機関を受診なさって下さい。インフルエンザに有効なお薬が処方してもらえます。二日を過ぎますと効果がなくなるので、ご注意ください。

また、最近、肺炎球菌ワクチンによる肺炎予防が普及してきました。当院でもご希望の方には予防接種を行なっています。慢性呼吸不全の方々で、風邪を引きやすく、肺炎が心配な方はぜひ予防接種をお受けになることをお勧めします。約五年の効果があるといわれています。これは肺炎球菌による肺炎しか予防せず、他の細菌による肺炎に対しては予防効果はありません。また、自費で費用が七〇〇円ほどかかります。

いずれにせよ、風邪は万病のもとですから、適切な休養、栄養（消化が良く、たんばく質の多い高いカロリー）の食事がお勧めです。かかりつけの医師に相談して、経口栄養剤を上手に利用されるのもよいでしょう。一、外出後のうがいと気をつけて、風邪をひいてもこじらせないように、また息切れがひどくならないよう、早めの受診を心がけて、この冬をお過ごし下さい。酸素を吸いながら、腹式呼吸などの呼吸リハビリは継続なさって下さい。

皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

福田内科クリニック 院長 福田陽一

明けましておめでとうございます。

昨年末は、ノロウイルスにいじめられた感がありました。今までよりも急にかかる人が多くなったようで、ウイルスの変異が考えられているようです。インフルエンザが同じようにならないければよいのですが。

さて、医療はますます厳しい環境になっていくようです。負担ばかりが増加していくように見えます。私もその負担に見合った医療サービスを提供できていけば、患者さんに満足いただけるのかも知れません。

しかし、なかなか厳しいのが現状です。それでも地域での在宅医療は、訪問看護ステーションやヘルパーズ、テーションの皆さんの頑張りで、少しずつ質が高くなっていると思います。在宅医療全体のレベルを上げること、呼吸不全についても良い方向に持っていきけるのではないかと考えています。

微力ながら、今年も頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

